

E—11 家庭生活における決定行為 (decision-making) の重要度について

広島大教育 伊藤 富美

家庭生活の中で行なわれる決定行為をインデックスにして家族類型を夫妻間の権威関係から把えようとする試みを行なってきた。その類型化のための尺度分析をくりかえしている過程で尺度の一次元性はえられたが、尺度化可能性をもつものとみとめられた質問項目が現実の生活で果してどの程度、重要性を有するものなのかが疑問になった。

そこでスケラビリティをもつ項目ももたない項目も合わせて評定法によって評定させ、系列範疇法で尺度値を求めた。

対象は20代、30代、40代、50代の夫妻同居の主婦とし、サンプル抽出はわが国の有配偶女子年齢別人口比によってそれぞれ、25、35、24、16、計100名。

その結果、高い尺度値をもつ項目ほど専ら夫の側に決定権が偏り、妻はその領域での決定行為に全く参加していないことが明らかにされた。すなわち、家庭生活の中でも重要な問題の決定には妻の力のおよばないものがあるといえる。